

共立女子大学文芸学部報

文芸学部報 第二〇号
編集責任者 池上公平
二〇一四年四月一日
共立女子大学文芸学部発行
東京都千代田区
一ツ橋二二二一

学部報に関する
ご意見・ご感想を
お寄せ下さい。
E-mail:
gakubuh@
kyoritsu-wu.ac.jp

大学随想

近年、文部科学省はアメリカからさまざまな教育制度を輸入して、日本の大学を作り替えるよう躍起になっている。シラバス、オフィス・アワー、アカデミック・アドヴァイザーなど、たゞさのカタカナ言葉が空気に漂うようになった。そこでなぜか、子供の頃に飲んだ、アルファベット文字の形をした小ファベット・スープをふと思

大学四年間、キャンパス内の学生寮に住んでいた。アメリカでは、高校を出たばかりの人間にとって親元を離れて生活することが大切な経験だと考えられている。大学の近くにアパートを借りる上級生も小さな台所があった、日曜日にインドから送られたスパイスを使って友達とカレーを書けることが楽しかった。寮の部屋に持って帰る入れば図書館で書く人もいて、賑やかなところで一番集中できると思って喫茶店でコーヒーを飲みながら書く人すらいた。問題の性質上カニングはほぼ不可能なので学生を一所に集めて監督する必要はない、と大学側が判断した。このシステムが今でも続いているかどうか分らないが、字でびっしり埋めたブルー・ブックを出した後の達成感はずいぶんいい思い出だ。勉強は大変だったが、かなり自由な大学時代だったのである。(みつたに まーがれっと 教授・比較文学)

大学の思い出

満谷 マーガレット

キューバ出身で、すでに二十歳だった。浪人したのではなく、移民した時にまったく英語が分からなかったため、学年が少し遅れた。しかし、子供時代にカストロのキューバ革命を目撃した歴史の証人だったし、しかも詩を書いた。先生の話聞いた後、学生同士のディスカッションに入ると、テキストを読んでいないと当然ディスカッションに参加できない。以上のように努力を続けていくに違いない。そう、誰がなんと言おうと、それが僕の生まれつきの性格なのだ。サンリが刺すように、蝉が樹木にしがみつくと、蛙が生まれた川に戻って、泳ぐように、カモの夫婦が互いを求めあうように。(中略)古いポストンバックのようにそれを握って、僕は長い道のりを歩んできたのだ。気に入って連中を連れていくわけではない。中身のわりに重すぎるし、見かけもぼろぼろだ。ところが、よくぼろぼろになっても、たとえまわりの人々に「村上さん、そろそろ走るのをやめた方がいいんじゃないですか。もう歳だし」と忠告されても、おそろしく僕はかまわずに走り続けることだ。たまたまタイムがもつと落ちついていく。僕はどこにいくフル・マラソンを完走するという目標に向かって、これまでと同じような

いくら遅くても走らないより 走る方がいい(?)

深津 謙一郎

空前のランニングブームと言われている。その火付け役となった東京マラソンへの出場抽選倍率はいま十倍を超え、市民ランナーのメッカとして知られる一週五キロの皇居外周ではしばしば「ランナー渋滞」が起きるといわれる。神保町界隈にはランナーのための施設(※ロッカーやシャワー設備のある「ランナーズステーション」(通称ランステ))も散在している。共立のキャンパス周辺でもランステを起点に「皇居ラン」に向かうランナーたちの姿をよく見かける。かという私もこの「ブーム」に乗っかっていて、自らのペースで、五年になる。もっとも雨の日も風の日も毎日欠かさず走っているわけではないし、「わざわざ電



いつものランニングコース (平成26年元日朝の荒川土手。さすがにランナーの姿は見えない)

全身運動と言われる水泳等と違って、ほかのトレーニングをせずに、ただひたすら走るだけだと筋肉の付き方にも偏りが出る。疲れたら、足首を捻じたり、膝に違和感を覚えたり(※片脚にかかるランニング時の着地衝撃は一般に体重の三倍〜五程度と言われている。もっとも、これも走り方によるのだ)と聞かれて、走る習慣を持たない人々を納得させられるような答えを出せるわけがない。とはいえ、ときたま「他者」から突き付けられる「こうした不条理な問い(?)のおかげで、多くのランニング中毒者が走ることに自己省察に向かう(向かわざるを得ない)ことは事実だ」と走るとは、人を哲学者にする」と言ったら言い過ぎだろうか。実際、走ることによって、そのなかには「なるほど、そなたはね」と思わせるものも結構ある。たゞは、その

「長距離走者が走る方がいい。」「長距離走者の孤独」こそ世の中であらうと、その「誠実さ」である。と看破し、他の誰かを満足させるための「競争」で勝つことを拒絶して、優勝のゴールを目前に走ることを止めた走者哲学者・スミス少年でもこの名言に同意して、くれそうだが(※アラン・シード、丸谷才一



《少女と本》アウメイダ・ジュニオル (ブラジル 1850-99年) 制作年不明 カンヴァスに油彩 50×61cm サンパウロ美術館

美の旅

Viagem à procura da beleza

福嶋 伸洋

幸せに生きていくためには、(文学)はむしろ妨げになるもの、ないほうが望ましいものかもしれない。しかし、わたしたちに真の幸福をもたらしているのだとつものもまた、(文学)に他ならない。

専任講師・ブラジル文学 (ふくしま) のふひろ

それから半世紀後、「日本人選手失踪事件」の真相が新聞で報じられると、スウェーデン・オリンピック委員会は金栗選手をあらためてストックホルムに招待し、第五回オリンピックの「競争」で勝つことを拒絶して、優勝のゴールを目前に走ることを止めた走者哲学者・スミス少年でもこの名言に同意して、くれそうだが(※アラン・シード、丸谷才一



ストックホルム近郊のマラソンコース上の町・ソレントウナに設置された金栗四三の記念銘板 (出典はウィキメディア・コモンズ)

以上のように努力を続けていくに違いない。そう、誰がなんと言おうと、それが僕の生まれつきの性格なのだ。サンリが刺すように、蝉が樹木にしがみつくと、蛙が生まれた川に戻って、泳ぐように、カモの夫婦が互いを求めあうように。(中略)古いポストンバックのようにそれを握って、僕は長い道のりを歩んできたのだ。気に入って連中を連れていくわけではない。中身のわりに重すぎるし、見かけもぼろぼろだ。ところが、よくぼろぼろになっても、たとえまわりの人々に「村上さん、そろそろ走るのをやめた方がいいんじゃないですか。もう歳だし」と忠告されても、おそろしく僕はかまわずに走り続けることだ。たまたまタイムがもつと落ちついていく。僕はどこにいくフル・マラソンを完走するという目標に向かって、これまでと同じような



# 新入生への挨拶

文芸学部長 池上 公平



新入生の皆さん、文芸学部へようこそ。大学生としての生活が始まった今、あらためて皆さんに聞きたいと思えます。

皆さんは何のために文芸学部に入学したのでしょうか。

「サー」と絶句してしまう人がいるかもしれません。こう

した根本的な問いかけは、えてして敬遠されがちなものですが、それはやはり大切な問いなのです。「私はこれこれのために文芸学部に入った」とはっきり言えるならば素晴らしいことです。ぜひその目的を達成してほしいと思います。でも、現時点で明確に答えられなくてもかまいません。卒業するまでに答えを見つければ良いのです。

その時、心にかけてほしいことがあります。それは、学生生活の根幹は学ぶことにある、と

いうことです。「そんなこと当たり前じゃないか」と言われてしまいがちです。そのとおりです。が、私はその当たり前のことを実行するのは本当に大切なことだと日々感じています。

学ぶ機会は机の上だけでなく、ありとあらゆるところにあります。そして文芸学部で扱う文学、芸術、メディアという領域は、私たちが生きる深く深いこの世界への入口です。ありとあらゆる機会に学び、新たな知識を得て、経験を深めること、それはこの世界へ入ってゆくことであり、同時に皆さんの人としての成長に直結します。その過程で皆さんが、「私はこのために文芸学部に入ったんだ」と言える何かを見つけて出すことを切に願っています。

## 「おもてなし」かつ!

村上 隆

特集テーマが「おもてなし」

になったのは、昨年の東京オリンピック招致プレゼンテーションで話題になった、アレに因んだからである。時空を超えて普遍的であることに価値を見出す、そここそ文芸学部の存在意義はある、と思ってきた。当方としては、時流に乗ることに抵抗がある。オリンピック招致最大の功労者であったはずの都知事が不祥事で辞任した今となっては、何やらオリンピック招致に関わるアレコレがいささか色褪せて見えているのではないかと、ささやかな不安を抱いている。だから、とは言わないが、受けてしまったかなあ、などとホヤいているうちに、毎年関西で開かれるFD研修会開催通知

がやって来た。立場上、欠席するわけにはいかない。今年も遠路、出席すると、いつも通り初めにFD専門家による基調講演があった。今年の講師は開口一番「日本には世界に冠たるオモテナシ文化があります」と言う。まったく昨今は猫も杓子もオモテナシだなど思っている、このオモテナシ文化は、民俗学の知見により、日本人が古来、神様を遠方より客人として迎え、神様の力が人間の役にたつように、食べ物をお供えしたり、踊りを奉ったりして様々に饗応したこと、つまり日本の祭祀に由来する、根の深いものです。などと温言を言う。講師は続けて「ですから、お客様は神様です。そして少なくとも私立大学にとって学生はお客様ですから、教職員は学生を神様のようにオモテナシしなければなりません」と言い出した。何をドンドンカンなどことをと周りを見回すが、参加者はみな真剣な顔をしている。おいおい、しっかりとこれよと思いついて、「まず、学生が教室に入ってきたら、早速入口までお出迎えし、荷物をもってさしあげながら、ようこそいらっしゃいました、とニコニコしましょう。どなたかモデルになって頂いた方が分かりやすいですね。では、その方」と、その講師は私を指さすではないか。冗談じゃない、宿屋の番頭じゃあるまいしと、逃げ出そうとする周囲から取り押さえられ、無理やり壇上に連れて行かせることになる。一体、どうなっているんだ。

と、そこで目が覚めた。嫌な夢を見たもんだ。だがしかし、考えてみると昨今の大学を取り巻く環境は、これをあながち悪夢とも言えない状況にあるのではないかと。例えば学生センターなどをあからさまに顧客満足度調査など言ったり、オープンキャンパスにおける対応を接客などと平気で言い換えてよしとする空気が世間にはあるではないか。大学にとって学費を負



伊勢神宮の神饌

たり、叱つたりはしないだろう。現在の大学教育の現場に散見される混迷の一面に、学生を何ほどか客と見る風潮があるように私は思える。

もちろんそこには世の中の至るところに浸潤している経済原理が働いているのであろう。それを無視することは出来ないがしかし、社会の動向を後追いするだけだ大学はあり方ではあるまい。社会の動きに対応しつつも、逆に社会に働きかけてそれを変える役割も大学は持っているのではないだろうか。

世に溢れる「オモテナシ」に思いついたが、こんな野暮な考えだ。

むらかみ たかし 教授・日本倫理思想史

## しなやかな饗応

村井 華代

「おもてなし」について一筆書かれても、生来の無粋で洗練された社交とは無縁である。練習された社交とは無縁である。専門である西洋演劇との関連で一席、とも思うが、大体において芝居の饗応とは主人公を人前で破滅させるための道具である。バンクォーの血まみれの亡霊が現われ、マクベスが客人の前で取り乱すのが良い例だ。日本でも状況は良いとは言えず、『仮名手本忠臣蔵』では勅使の塩治判官が腹を切る。能の『鉢木』は貧しい武士が丹精した鉢木を火にくべて客をもてなす美談ではないかという声もあるが、客が執権時頼ではないかと普通の人だったらどうだろう。私なら申し訳なくて居たたまれず、その夜は眠れそうもない。

な時間を共有できるような饗応とは。無粋な私はつい全力を尽くして欲待たしてしまいが、このような場合、こちらの気負いで客人を圧迫してしまうこともある。こちらは料理係だからとあくせく動いていると「座って座って」と座るまで言われる。思い出すのは他大で演劇を講じるA先生のお宅で、研究者の女子会を開催させていたたいたときのことだ。A先生のお母様は料理の先生で、その日テーブルに並んだのは全とお母様の手による鮮やかな品だった。お母様は料理の腕前だけではなく、昭和の日本女性の強さ、しなやかさを感じさせる大変に魅力的な方だ。ある時、A先生は学生を自宅に招き、やはりお母様が手料理を振舞った。それからしばらく経った後、A先生が帰宅するとなぜかその学生が家にいて、お母様が料理を出している

## 37年目の思い

大浦 和子

取り立てて取り柄もない自分こそ野菜だと思った。しなびてしまわないうちに伴侶を見つけないと……。

あれから37年。自分が野菜だとしても、新鮮さの基盤は、その瞬間瞬間をきちんと生き、生きているかたという、くたくたたり前の事を痛感する。あれこれ頭の痛い現実、あれこれ悩む。子ももが小学生の頃、担任の先生が私たち保護者を前に「子どものお陰で……と喜んでくれた」とおっしゃった。

……シッカリ納得しながらも、子どものお陰で……したくも無い苦勞もあるけど……と心の中でちょっと反論。こいつのことを言うと、母は「罰当たりなことを」と私をたしなめた。隣の芝生は青く見えるから、うちだけ、私だけ、と思う時期もあった。罰当たりなことを「と私をたしなめた。隣の芝生は青く見えるから、うちだけ、私だけ、と思う時期もあった。罰当たりなことを「と私をたしなめた。隣の芝生は青く見えるから、うちだけ、私だけ、と思う時期もあった。



卒業証書

きがあった。「就活」なんて言葉は無かったあの頃だ。就職するのは大変だった。そんな社会情勢の中、娘を「発言、懐かしく思い出す一幕だ。どんな人生を歩もうともし学んだことは決して無駄ではない」と、当時の「新鮮な野菜」は強く感じている。入江先生はじめ、多くの先生方の顔が浮かぶ。

最近、入江先生が『あふれよわが涙』という小説を出版されたことを知り、「一気に読み終えた。必読だったシェイクスピアには申し訳ないが、10倍ワクワクしながら読んだ。桜の友にも本を回して感想を言い合っている。卒業37年目の楽しみも共立のお陰で感謝している。

（おおうら かずこ 昭和五十二年 文芸学部 英文学コース卒業）

京都・南禅寺方丈の客間

い。客もまた、それにこたえらるる。高貴な女性に失礼のないように緊張する彼をよそに、姫は何も言わずに宮城の奥に歩いて行く。その優雅な後姿にうっとり。客を接待するのは、すべからずこのようにありたい。「客の讃辞を求めない主人と、主人を批評しない客。海の奥なるエトピアの「おもてなし」は、

研究紹介

堀新 『羽衣家康』『豊臣秀忠』って誰? 『文藝春秋』二〇一三年十一月号

『戦国大名の古文書 西日本編』(共編著) 柏書房 二〇一三年十一月

『黒田官兵衛とその時代』(講演) 船橋市高根台公民館 二〇一三年九月

水谷 靖 『能面―伝統美への再考 水谷靖個展』インドネシア・パンドン マラナタキリスト教大学 二〇一三年九月

村井 華代 『反ドラマをめぐる試論―大江・サイード・イスラエル』日本演劇学会 二〇一三年十月

『見えざるもの』のあらわれ―S. アンスキ『ディブツク』における「ユダヤ的」舞台表象の逆説 日本ユダヤ学会 二〇一三年十月

賞

文芸学部の優秀な卒業論文・卒業制作に与えられる賞。

平成二十五年度は、次の作品に贈られました。

高橋幸絵 (造形芸術コース)

「牛骨のある風景―(キャンパスに油彩)」

小池美季 (日本語日本文学コース)

「郷土かるたのちから―土地・言葉・音―」



おもてなし

田口 亜紀

二〇一〇年五輪招致の際、滝川クリステルがオリピックの第一公用語であるフランス語で...

「おもてなし」は「おもてなし」の精神に貫かれ、必ず帰国して「おもてなし」の精神を...



ボヌー Hôtel-Dieu

「おもてなし」の精神に貫かれ、必ず帰国して「おもてなし」の精神を...

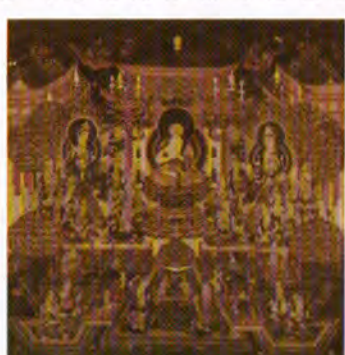
おもてなしの裏

内田 保廣

「おもてなし」の裏には、おもてなしの裏には、おもてなしの裏には...

「おもてなし」の裏には、おもてなしの裏には、おもてなしの裏には...

作るような意味もあるのです。人たという話になっています。...



智光上人が夢で見た極楽図、この形式を智光曼荼羅と呼ぶ。

異動・消息

(文芸学部専任のみ)

- 岡田ひろみ教授(准教授)
園分建志教授(准教授)
奥彩子准教授(専任講師)
田口亜紀准教授(専任講師)
退職
(准教授) 木原貴子
(助手) 足立理江、石崎香里、遠藤彩、齊藤久美子、須藤理沙、田中久美子
新任
(准教授) 谷田貝雅典
(専任講師) 上野慎也、吉澤弥生
(助手) 生田果里絵、岩永ゆりや、内堀玲菜、齋藤恵、澤嶋明香、千葉しほみ
(三月一日現在)

「若女」面を打つ

水谷 靖

研究ノート

初めて「若女」面を写した。「若女」は「小面」と「増女」...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...



「若女」筆者作

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

「若女」は「小面」と「増女」の中間にある二十歳前後の女性面である。...

心象点描

学部報の思い出など

下村 陽子

印刷術と基本的には変わらないが、デジタル製版が普及したことで、印刷の歴史に関する個人博物館として有名な...

印刷術と基本的には変わらないが、デジタル製版が普及したことで、印刷の歴史に関する個人博物館として有名な...

印刷術と基本的には変わらないが、デジタル製版が普及したことで、印刷の歴史に関する個人博物館として有名な...

印刷術と基本的には変わらないが、デジタル製版が普及したことで、印刷の歴史に関する個人博物館として有名な...

学部報の思い出など (下村 陽子)
印刷術と基本的には変わらないが、デジタル製版が普及したことで、印刷の歴史に関する個人博物館として有名な...





〈劇芸術〉

Congratulations!

四月、新しい年度の始まりです。一年生の皆さん、御入学おめでとうございます。在学生も、この一年が大学生活の中でどんな意味を持っているかを自覚しながら、それぞれのステップを踏み出そうとしていることでしょう。最後まで、それを忘れないでください。

〈造形芸術〉

旅のすすめ

学生の中には様々な新しい経験と出会ってほしいものではないでしょうか。百周年を

プロフィール

藤田 岳久 先生 (准教授)

「コンピュータのプログラミンクが元も趣味だったんだよね。」



藤田 岳久先生

「コンピュータのプログラミンクが元も趣味だったんだよね。」

すが、既に「こんなこと学生の組の外国人から写真撮って...」

〈英語英米文学〉

批判的思考スキル

私が最初に共立女子大学の教員となった時、学生のために何を望むか、石橋理事長とお話を

フランス語フランス文学

大統領は事実婚

日本では欧米と言えばアメリカが中心で、フランスはというと

〈文芸メディア〉

研究室案内

この四月から、文芸メディア研究室の布陣が変わりました。

〈文芸メディア〉

世間コケ、唯仏是真

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

〈文芸メディア〉

世間コケ、唯仏是真

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて



〈司書課程〉

図書館を利用して

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「図書館で本の検索をしたことがある人、手をあげてください。」

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて

「ここの話の話を、私はコケを育てている。今これを読んだあなたは笑うか引くかしたて